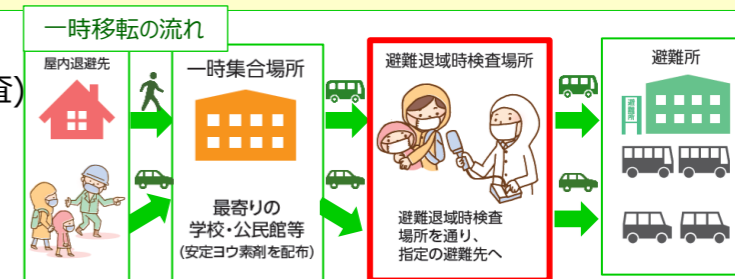


1. 避難退域時検査について

- 原子力災害発生時に、一時移転等を行う住民等に対して、避難経路上で、放射性物質が身体や車両に付着していないか確認する検査(避難退域時検査)
⇒ その結果、基準値を超える場合には放射性物質を取り除く除染を実施
- 富山県避難計画要綱及び氷見市住民避難計画では、避難ルートごとに、5会場の避難退域時検査場所候補地を設定
- そのうち、石川県からの避難も想定される氷見運動公園において、国の原子力災害時避難円滑化モデル実証事業の採択を受け、検査能力向上のための工事を実施（令和元年度～令和3年度）



2. 原子力災害時避難円滑化モデル実証事業の内容



事業の概要

1. 事業区域 氷見運動公園及び氷見市道環状南線
2. 事業年度 令和元年度～令和3年度（3年間）
3. 事業費 3億6,073万円（全額国費）
4. 事業内容

原子力災害時避難円滑化モデル実証事業

万が一の原子力災害発生に備えるため、住民等の円滑な一時移転等を確保するための交通誘導対策の強化や避難経路上の改善などの取組みについて、国が事業費の全額の支援を行うもの。

① 氷見運動公園内の避難導線の円滑化

- 効率的な検査に向け、同一敷地内で自家用車とバスを並行して検査できるスペースを確保するため、公園の一部を舗装して整備



② 避難道路の冠水対策

- 大雨の際の避難車両の通行を確保するため、氷見運動公園に隣接する市道環状南線をかさ上げ
- 強い降雨の際でも避難経路を安全に通行することが可能となった。



③ 交通誘導対策等の強化

- 道に不慣れな方を誘導する看板や夜間の検査に対応するための照明等の資機材を整備



3. 原子力防災訓練による検証

令和3年度 石川県からの避難者を想定し、本県初の車両4レーンの検査を実施

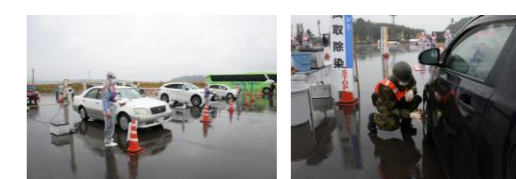
- 令和3年11月23日開催
- 石川県から本県を経由する避難者の受入れを想定して、新たに整備した会場を最大限活用した訓練を実施
- 自家用車約60台、バス5台、住民約110名が参加
- 大規模な車両検査が可能であることを実証するとともに、要員等の体制・運用を検証



参加者住民アンケート結果
「スムーズ」「概ねスムーズ」70.0%

令和4年度 実際に石川県の住民を受け入れて、石川県と共同で避難退域時検査を実施

- 令和4年11月23日開催
- 石川県七尾市の住民が、初めて氷見市を経由して避難退域時検査を受けるルートで避難
- 石川県のスタッフと共同で検査場所を運営
- 前年度と同様に車両4レーンを用いて、自家用車約80台、バス12台、住民約180名が参加
- 昨年度の検証を踏まえ、レイアウト及び運用等を改善し、渋滞を軽減



参加者住民アンケート結果
「スムーズ」「概ねスムーズ」89.3%